

令和 6 年度 県立太田第一高等学校自己評価表【全日制】

目指す学校像	グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(1)自ら課題を発見し、協働しながら創造的に解決できる力の育成 (2)主体的に学び続ける資質・能力の育成 (3)多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現する力の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1)探究を軸とした創造的な学びの環境を整備 (2)主体的に社会参画できる環境の整備 (3)多様な学びが選択できる教育課程の編成	
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	(1)挑戦する心と柔軟性を持つ生徒 (2)主体的に学びに向かう意欲を持つ生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>・令和 5 年度国公立大学合格者は 31 名、うち難関大学合格者は 0 名だった。国公立大合格者を増加させるために、総合型選抜や学校推薦型選抜での合格者数を増やす必要がある。そのためには生徒自ら ICT 機器等を効果的に活用し、個別最適で「主体的・対話的で深い学び」が実践できるよう、さらに授業改善を推進する必要がある。</p> <p>・探究活動においては、探究協議会が発足し、地域や関係機関と連携することができた。今後は、それらとの連携を深化させ、総合的な探究の時間を軸に、各種コンテストへの参加等をおして、探究活動を更に推進する必要がある。</p> <p>・生徒主体で実施する行事は増えつつある。また市議会との交流や市内の各種団体との協力による地域貢献も見られた。今後は生徒の積極性を更に向上させ、主体的に活動する生徒の裾野を広げる必要がある。</p> <p>・超過勤務 45 時間超の教員の割合は月平均 16.3%、80 時間超は 1.8%、平均時間は 26 時間 35 分だった。係分担などで、業務内容に偏りが見られ一部の教員に業務が集中している様子も見られる。</p>	「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	①国公立大学合格者数 40 人うち難関大学合格者数 1 人 ②「授業目標に向け、協働するなどして知識の習得を図った。」と感じる生徒の割合 90%以上 ③生徒による授業評価アンケートの満足度の肯定的回答 80%以上	B
	探究を軸とした学びの推進	④学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者数 14 人 ⑤「授業等で自ら課題を見つけ解決している」と感じる生徒の割合 90%以上 ⑥ドリームパス等へのコンテストに 5 組以上参加 ⑦全国規模のイノベーションコンテストに 1 組以上が応募	B
	シティズンシップ教育の充実	⑧「主体的に行事に参画した」と感じる生徒の割合 70%以上 ⑨「行事活動を通して課題を発見した」と感じる生徒の割合 60%以上 ⑩「発見した課題を協働して解決した」と感じる生徒の割合 50%以上 ⑪「総合的な探究の時間」において、地域の課題解決の探究に取り組んだ探究チームの数 30 チーム以上	A
	ダイバーシティ教育の充実	⑫国際開発・協力への視野を広げる「国際リーダーシップ研修」の実施 ⑬主体的に社会の発展や改革する力を養う「国際エンパワーメント研修」の実施 ⑭積極的な留学生の受け入れ	A
	教職員の在籍時間の顕在化と業務の効率化	⑮授業やその準備に ICT を効果的に活用するなどして業務を効率化し、超過勤務時間 45 時間を超える教諭を縮減する ⑯分掌業務等の校務に ICT を効果的に活用するなどして業務を効率化し、超過勤務時間 45 時間を超える教諭を縮減する ⑰校務分掌の業務の明確化と精選	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導 (共通)	1 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	(1)授業目標に向け、協働させるなどして知識の習得を図る	B	B	・いずれの項目も80%以上の肯定的回答を得た。さらに研究と実践を重ねる必要がある。	
	2 探究を軸にした学びの推進	(2)授業等で自ら課題を見つけ解決し発表する機会を設ける	B			
教 科	国 語	1 主体的に読み、それをもとに表現する力の育成	(1)小テスト等を利用して基礎的な言語事項や文法・句法の理解度を把握し、習熟度に沿った対応を心がける	A	A	・評価と指導の一体化の観点からの観点別評価についてのさらなる研究・研修が必要である。 ・家庭学習において課題型ではなく個別最適化をすすめる。自ら学びを選択するなど自己調整能力の伸長を図れるような働きかけを検討する必要がある。
			(2)ICTを活用した授業展開をはかりながら、学習意欲を喚起し、対話的で分かりやすい授業の実践に努め、学習内容の定着に努める	A		
			(3)探究的な視点を取り入れた授業実践を、年間を通して展開し、授業改善を推進する	A		
		2 家庭学習の習慣化	(4)自己管理能力を高めるため家庭学習教材等を準備等し、家庭学習の習慣をつけさせる	B		
		3 読解力・表現力向上を目指し、授業の改善	(5)全員が授業公開し、新学習指導要領を踏まえた指導力の向上、主体的・対話的で深い学びの視点から、ICTも適宜活用した授業内容・方法等について研究と修養をする	A		
			(6)「評価と指導の一体化」の視点で1年次より順次、年間指導計画を作成、実施する	B		
			(7)各種研修会に積極的に参加し、教科会で発表するとともに自己研鑽に努める	A		
	地 歴・ 公 民		1 進路実現のための基礎学力の向上と思考力・判断力・表現力の育成	(1)単元ごとに、学習した知識とともに思考・判断・表現を問う学習活動を実施する	B	B
		2 日本と世界の歴史や地理に関する理解の深化と国際化に対応できる授業の実践	(2)ICTを効果的に活用し、日本と世界の歴史や地理について多面的・多角的にとらえさせ、多様性を受容し、グローバルな視野で思考・判断・表現することができる力の習得を目指す活動を展開する	A		
		3 現代の諸問題についての課題意識の醸成と自ら課題解決に向かう公民としての資質の育成	(3)多様なメディアを主体的に活用し、社会の諸課題についての関心を高め、課題解決に向けた話し合い活動等を行う	B		
	数 学	1 基礎学力の向上と、生徒の主体的で対話的な深い学びの支援	(1)単元テスト等を利用して学習の理解度を各自で把握させることで、生徒が自らの学習を調整しながら取組めるよう支援をする	B	B	・学習意欲向上のため、生徒の理解度を高める授業を展開する必要がある。 ・科内の研究授業を充実させる必要がある。 ・年度内の教員数変更で、少人数制をうまく機能させることができなかった。
			(2)少人数指導によるきめ細やかな指導を行い、対話的・共同的な学びの場を設定し、深い学びを実現する	C		
			(3)課外活動等を活用し、より深く学びたい生徒に対して学習を深化できるように支援する	B		
			(4)授業や課外活動の中で、ICTを効果的に活用し、生徒の学び方を増進する	B		
2 学習習慣の定着		(5)課題のワークブックを定期的に点検し、学習の習慣を付ける	B			
3 授業内容の研究・改善		(6)担当者全員がお互いに授業を公開して見学し合い、授業内容・指導方法等について教科内で研究協議する	C			
理 科	1 確かな学力の定着	(1)学習意欲を喚起するような対話的な授業の実践に努め、生徒一人一人に寄り添う支援を行う	B	B	・生徒の適性に応じた個別最適な学びと、相互に意見交換ができる協働的な学びにより、主体的で対話的な深い学びへ繋げる工夫が必要である。そのためにPadletやロイロノートなど、ICT機器の活用事例の研究必要である。	
		(2)実験・観察などを通して自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、主体的に学ぶ態度を育成する	B			
	2 学習習慣の確立	(3)生徒の実態に応じた課題を設定し、継続的な学習の習慣づけを支援する	B			
	3 深い学びを実現する工夫	(4)外部の人的・物的資源・インターネット利用等を通して、主体的に探究する機会を設け、深い学びへつなげる	C			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科	保健体育	1 運動技能の向上と、主体的・対話的で深い学びの実践や探究心の育成	(1)基本的な生活習慣を身につけ、体力の向上ならびに、各種運動技能を向上させる	A	A ・グループ学習を通して自ら課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ態度を身につけさせる必要がある。 ・生徒の実態にあった種目に見直す必要がある。	
			(2)ICTを適宜活用し、各種運動の特性や魅力に触れ、主体的な健康の保持増進や回復を目指す	A		
		2 保健の知識の習得と、日常生活での活用	(3)健康・安全について理解させ、生涯を通じて健康を管理・改善できるようにする	A		
			(4)自ら課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ態度を身につけさせる	B		
	芸術	1 表現、鑑賞能力の向上	(1)個別指導を丹念に行い、個に応じた表現・鑑賞能力の育成に努める	A		B ・3年間を見通した教育課程を構築し実践する必要がある。 ・ICTを生かし、思考力・判断力・表現力を効果的に育成する必要がある。
			(2)ICT機器を効果的に活用して、表現・鑑賞能力を向上させる	C		
		2 探究的な学び	(3)生徒が自ら課題を見つけ解決する探究的活動を取り入れる	B		
			(4)学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者の育成をめざす	C		
		3 主体的・対話的な授業改善	(5)授業目標に向け、協働して知識の習得を図る態度を身に付ける	B		
			(6)他者との意見交換を取り入れ、思考力・判断力を深める	B		
	英語	1 基礎学力の定着、実践力の向上と、進路希望の実現	(1)到達目標を意識した指導を行い、内容の定着および応用力の育成を図り、評価を行う	B	B ・アプリなどで学習の個別最適化を図るとともに、英検やGTECを目標に意識を高めて、自走できる生徒を育てる必要がある。 ・効果的なパフォーマンステスト、ICT活用、小テストの定期的実施などを進めて、生徒の意欲、基礎学力を高める必要がある。 ・英語科から学年主任、部長が多く出ているため、教科で指導の共有をする時間が少ないが、効果的な指導法の共有や授業参観の機会を増やすとともに、学校設定科目についても話し合う時間を増やす必要がある。	
			(2)少人数授業、習熟度別によるきめ細かな指導を行い、その成果と課題をふまえ、指導方法の改善策を講じる。	B		
			(3)学力向上につながる小テストや課題等を工夫し、自主的に学習に取り組む学習習慣と態度を身に付ける	B		
		2 探究的な学びを通して主体的に社会参画する態度の涵養	(4)各種コンテストやEnglish Camp、英語研修などに積極的に参加し、異文化理解を深め、深い学びと実践力を高める	B		
3 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善			(5)ALT との Team-Teaching を効果的に展開し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う	B		
		(6)教材、指導法について研究を深め「読む、書く、話す、聞く」の4技能5領域をバランスよく育成する。*ICT機器の活用、ディベート要素を取り入れながら活動する	B			
		(7)各種研修会への積極的な参加や、相互授業参観の実施で、指導力の改善に向けた自己研鑽に努める	C			
		(4)表現力を高めるパフォーマンステストを効果的にを行い、観点別評価の研究を深める	B			
		(5)英語外部検定試験を含めた大学の入学試験制度への対応を深める。 *実用英語検定試験準会場実施、GTEC1・2年次生悉皆受験	B			
		1 基礎的・基本的な知識や技術の定着	(1)授業の目標を明示し、一人ひとりの学習状況に応じた指導をする	A		B 限られた時間で各分野を均一に学べるように余裕をもって計画的に進める必要がある。 ・実技授業の評価方法について研究する必要がある。
(2)小テストや課題等を工夫し、適切に実施する	C					
2 課題解決能力および実践的な態度の育成	(3)ホームプロジェクト等において、身近な生活の中に課題を見つけ、主体的に解決する方法を考え、実践する		A			
	3 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践	(4)課題に対する自分の意見を文章等で表現させたり、他者と意見交換をしたりすることで思考力・判断力・表現力を向上させる	B			
(5)ICT機器等を活用し、学習への興味・関心を高める		A				
情報	1 情報がわかる喜びを実感できる授業への改善	(1)chromebookを用いた授業を研究し、生徒が自ら学ぶ姿勢を定着させる	B	B ・chromebookを用いた授業を更に充実させる必要がある。		
		(2)各研修会に積極的に参加し、自己研鑽に努める	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	1 学習指導要領を踏まえた特色ある教育課程の編成と運営	(1)教育目標の実現を目指し、多様な学びを支援する教育課程の計画的な策定に努める	A	A ・成績評価方法の研究を推進する。教科の枠を超えて評価方法を共有・協議する機会を設け、授業改善方策の研究につなげる必要がある。 ・中学生や保護者の意識を調査分析し、効果的な広報や学校説明会の在り方を検討する必要がある。 ・ICT 有効活用等多様な学びの実現に向け職員研修の機会を設ける必要がある。
		(2)学習成績評価の方法についての研究を継続する	B	
		(3)学習効果を高めるため、授業改善に向けたICTの有効活用について研究する	B	
	2 学びの保障と多様な学びの支援の実現	(4)多様な学習ニーズに対応した学びの実現に向け、校内規定の見直しを図る	A	
		(5)グローバルな視野を持ち、多様性を受入れるダイバーシティ教育を推進する	A	
	3 広報活動の充実	(6)学校公開や学校説明会の機会をさらに充実させ、中学校・地域への広報活動に努める	A	
(7)学校案内(スクールガイド)・ポスター・学校HP・インターネット等を活用し本校の教育活動を広く発信し理解を得ることで、教育活動の活性化につなげる		A		
渉外	1 学びの環境の整備	(1)高教研への登録者の増加や、PTA会員名簿の作成に努める	A	A ・保護者と教職員の信頼関係を強化する必要がある。
		(2)奨学金について、保護者・生徒に周知し、円滑な手続きに努める	B	
	2 PTA活動の充実	(3)PTA各行事(総会・年次PTA・講演会・支部懇談会)等の出席率向上を図る	B	
		(4)PTA会報を発行し、会員相互の情報交換と研修に努める	A	
		(5)PTA研修旅行を実施し、大学見学等の研修を行い、保護者との親睦を深める	A	
		(6)PTAの生徒指導関連行事を実施し、生徒の安全な学校生活を支援する	A	
探究推進	1 探究活動の充実と外部への発信	(1)中高を貫く6年間の探究的な学びのCAN-DOリストを作成し、発達段階に応じた指導に活かす	B	B ・部会の定期的開催、コンテスト等の指導の分担、年次間の年間計画の共有を進める必要がある。 ・探究経過・成果の可視化、継続研究の推進を進める必要がある。 ・地域探究等で外部からの連携・協力依頼が増え、学校のPRにもつながるため、生徒のサポートを強化する必要がある。 ・DXハイスクールやチャレンジプロジェクト特別枠など新規事業により、計画的指導が難しく、業務精選の必要がある。
		(2)中高が連携して行う探究活動や、公開中高合同発表会を効果的に企画・実施し、生徒が主体的に課題を解決する力を育成する	A	
		(3)各種探究コンテストへの参加を奨励し、その活動や成果を積極的に発信する	A	
	2 主体的な学びの体制の充実	(1)年次の実践共有や教員研修で教員の研鑽を深め、探究活動の伴走者として生徒の学びをサポートする	B	
		(2)青龍アラカルト課外やDXハイスクールで、生徒の多様な学びのニーズに対応する	A	
		(3)地域連携、高大連携、企業と連携した探究活動を促進し、実社会に即した学びで社会参画への意識を高める	A	
	(4)外部委員による探究推進協議会との連携と生徒の探究委員会の活性化で、探究環境を整える	B		
キャリア・サポート	【進学目標】 1 適切な進路指導の充実を図り、国公立大学合格者数40人うち難関大学合格者数1人 2 総合型選抜及び学校推薦型選抜の対策を早期に進め、学校推薦型選抜、総合型選抜での国公立大学合格者数14人	(1)学校独自編集の進路資料を6月までに発刊し全生徒へ配布する	A	A ・総合型入試に対応できる3年間および6年間を通じたキャリアサポート目標と年間計画をバージョンアップする必要がある。 ・AI等も活用した個別最適化、個別業務のICT化とアウトソーシング化による働き方改革の更なる推進の必要がある。
		(2)「すべての教室へ新聞を」運動による教室への新聞の配置を毎日行う	A	
		(3)学校独自、または外部機関と連携による各種インターンシップを企画・実施する	A	
		(4)3年次対象の小論文講座、面接指導を実施する	B	
		(5)年次ごとの企画により模擬試験・大学見学体験会・進学型課外を実施する	A	
		(6)高校1・2年次向けの卒業生進路懇談会を実施する	B	
		(7)キャリア教育プログラムをJAほか外部機関と連携して行う	A	
		(8)Google クラウドを活用して進路情報のタイムリーな提供を行う	A	
		(9)キャリア面談を実施し、難関大学および総合型・推薦受験への早期の働きかけを行う	A	
	【就職目標】 1 生徒の能力・適性に応じた就職指導の徹底を図ることで、就職率100%	(1)適切な就職斡旋のため、昨年度より早期からのキャリア面談を実施する	A	
		(2)事業所からの情報収集と、ネット求人票などによる適切な就職情報を生徒へ提示する	A	
		(3)外部機関と連携し、3年次を中心とした放課後公務員講座を実施する	B	
		(4)ハローワークとの連携と、各種報告や会議を通じた情報収集を行う	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
特別活動	1 生き生きとした高校生活の確立	(1)生徒が主体となってHR活動や学校行事を行えるよう支援する。また行事を通して課題を発見し協働しながら解決できる力の育成を図る	A	B	・中高の連携を図り中高一貫教育校としての活動を充実させる必要がある。 ・生徒会関係の内規を改正する必要がある。
	2 生徒会活動の活性化	(2)生徒が主体性を発揮し、地域との連携を図りながら、生徒会を中心に学校行事の企画運営を行う	B		
	3 部活動の充実と発展	(3)部活動の活性化を促進するとともに、生徒の主体的活動に基づいた運営を支援する	A		
	4 中高一貫教育校として活動の充実	(4)附属中学と各種行事をはじめとして委員会活動や部活動、生徒会活動を通じて連携を図り、中高一貫教育校としての活動を充実させる	B		
ウェルネス	1 基本的な生活習慣の確立	(1)貴重品の自己管理と教室の施錠・貴重品袋の活用を徹底する	B	B	・服装指導の改善(全職員・生徒への周知徹底を図る)の必要がある。 ・スマートフォンのマナー向上を図る必要がある。 ・生徒の委員会活動のさらなる活性化を図る必要がある。
		(2)服装・頭髪の指導については、全職員の共通理解のもと指導方針に一貫性を持たせ、職員の一一致協力による指導を行う	C		
		(3)携帯電話やスマートフォンのマナーを守らせ適切な使用を徹底させる	B		
		(4)情報モラルの向上に努め、トラブルに巻き込まれないように注意喚起する	B		
	2 交通安全指導の強化	(5)必要に応じPTA生徒指導委員の参加・指導を依頼する	B		
		(6)共通理解を図りながら、全職員で立哨指導を行う	B		
		(7)保険加入の確認も含め、4月当初に自転車・バイクの点検を行う	B		
	3 生徒の自発的活動の促進	(8)生活委員会を毎月開催し、校内風紀や環境の向上に生徒が主体的に関わり行動するよう促す	A		
		(9)交通講話やHR活動等とおして、生徒一人一人の自覚を促し、交通・公共マナーの向上に主体的に取り組むよう支援する	B		
	4 教育相談の充実	(10)担任、年次、スクールカウンセラー、保護者との連携を図りながら、生徒一人一人に寄り添った教育相談を行い、早期解決に導く	B		
		(11)職員、保護者等に対する支援、相談、情報提供を行う	B		
	5 生徒・教職員の心身の健康増進	(12)生徒が主体的に感染防止対策を講じることができる能力を育てる	B		
		(13)保健便り等を活用し、保健室の効果的な運営に努める	B		
		(14)性教育講演会等各種健康教育を実施し、健全な健康観を作る	A		
6 環境の整備・美化	(15)清掃用具の管理に努め、全職員・全生徒による清掃を徹底し、衛生環境の改善を図る	B			
	(16)生徒の健康安全を重視し、学習環境の安全点検を行う	B			
7 防災・安全管理の徹底	(17)災害の怖さや、防災の大切さを啓発する	B			
	(18)綿密な計画を立て生徒が安全な行動を取れるように指導する	B			
	(19)避難訓練の方法を工夫し適切に実施する	B			
1年次	1 基本的な生活習慣の確立	(1)生徒面談、教育相談、立哨指導、年次集会、校内巡視等による適切な生徒指導に努める	A	A	・学力差に応じた学習課題の個別最適化を推進する必要がある。 ・主体的な進路学習と学習計画の習慣化を図る必要がある。 ・主体的体験的な活動をねらいとするLHR計画を作成する必要がある。
		(2)学校生活全体とおした規範意識の醸成および健康維持・増進を図る	A		
		(3)生活の中での時間遵守と挨拶の励行を呼びかける	A		
	2 主体的な学習態度の育成および基礎学力の向上	(4)学習時間調査等を活用し、「予習→授業→復習」の学習サイクルの早期定着を図る	B		
		(5)総合探究を含めた学習内容に関して深く学ぶ手段を自ら発見し、学び続ける姿勢を育成する	A		
		(6)課外や外部講座等を利用し、発展的学習に主体的に取り組む姿勢の育成を図る	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
1年次	3 進路目標の設定	(7)各教科の授業や特別活動を通じて知り得た自己の興味関心から進路選択について考えさせる	A	A ・規範意識と自己理解他者理解の醸成をさらに推進する必要がある。
		(8)進路行事をとおして進路意識の啓発を図り、生徒面談で具体的目標を検討させる	A	
		(9)進路目標の実現にむけて、授業や模試等をとおした学力の育成を図る	A	
	4 高校生活の充実	(10)LHR等でライフスキル教育を実践し、自己理解と他者理解を深め、互いに認め合う経験を重ねる	B	
		(11)部活動や学校行事への積極的な参加を促し、対話的な学びを大切にしながら集団への寄与や一体感を体験させる	A	
2年次	1 基本的な生活習慣の確立	(1)生徒面談、教育相談、立哨指導、年次集会、校内巡視等による適切な指導に努める	B	B ・個に応じたコミュニケーションをさらに活性化する必要がある。 ・進路実現にむけ、生徒の意識を改革する必要がある。 ・学習習慣のさらなる定着と学力向上(学習時間記録や模試復習を義務化するなど)を図る必要がある。 ・基本的な生活習慣に課題のある生徒に向けた指導を徹底する必要がある。
		(2)学校生活全体をとおした規範意識の醸成および健康維持・増進を図る	B	
		(3)生活の中での時間遵守と挨拶の励行を呼びかける	B	
	2 主体的・協力的に課題に取り組む態度の育成と基礎学力の向上	(4)学習時間調査等を活用し、「予習→授業→復習」の学習サイクルの定着を図る	B	
		(5)総合探究を含めた学習活動全般をとおし、協働して創造的に解決する資質能力の育成を図る	A	
		(6)模試や課外等による現状把握に基づき、自学の習慣化と学力向上を図る	B	
	3 進路目標の明確化	(7)個別面談等をとおして、個に応じた学習・進路指導を推進する	A	
		(8)進路ガイダンス・進路講演会・大学見学会・インターンシップその他の活動をとおして、学問分野の情報収集・研究をさせる	A	
		(9)模試等で自己の学力を把握させ、次年度の科目選択を具体的に考えさせる	B	
	4 主体的な高校生活	(10)部活動や学校行事への積極的な参加を促し、集団への寄与や一体感を体験させる	B	
3年次	1 基本的な生活習慣の確立	(1)生徒面談、教育相談、立哨指導、年次集会、校内巡視等で適切な生徒指導に努める	B	B ・進路情報を年次間で共有する必要がある。 ・受験に対して早期から意識づけ、課外への参加を意識づける必要がある。 ・調査書等の表現や表記の統一、電子出願の指導とフォロー体制を構築する必要がある。 ・適性に応じて科目選択について適切な助言をする必要がある。(2年次) ・地域との関わりは学校全体の課題として捉える必要がある。
		(2)学校生活全体の中で、規範意識の醸成と健康の維持・増進を図る	B	
	2 主体的・自主的な学習態度の育成および難関大学を視野に入れた進路実現	(3)生徒自身が主体的に進路を選択し、目標に向かって努力する体制をつくる	B	
		(4)入試制度について関係各所と連携して研修に努め、生徒の進路実現に寄与する	B	
		(5)授業や課外への積極的・主体的な参加を支援し、入試に耐えうる学力の増進を図る	B	
		(6)年次や教科の枠を越えて、教員が個々の専門性や特性を生かした進路指導を推進する	B	
	3 高校生活の充実	(7)課外活動への積極的な参加を通して、思いやりの気持ちや連携意識の高揚に努める	B	
		(8)広い視野に立ち、地域社会から愛され、地域社会に貢献する人材を育成する	B	

※ 評価規準 A：大変よくできた(達成度 100～80%)

B：よくできた(達成度 80～60%)

C：普通(達成度 60～40%)

D：あまりできなかった(達成度 40～20%)

E：全くできなかった(達成度 20～0%)